

経済・金融 フラッシュ

【インドネシア 1-3 月期GDP】

前年同期比+4.7%

～補助金削減の成果を待つ辛抱の時期に～

経済研究部 研究員 斉藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

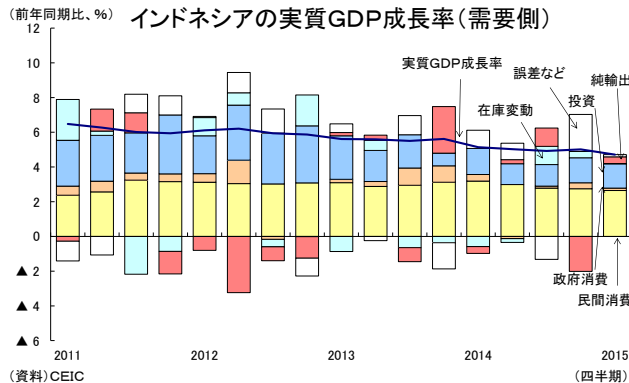
1. 1-3 月期は前年同期比+4.7%と鈍化

インドネシア中央統計庁（BPS）は5月5日、2015年1-3月期の国内総生産（GDP）を公表した。実質GDPは前年同期比（原系列）4.7%と前期（同+5.0%）から鈍化し、市場予想¹（同+4.9%）を下回った。

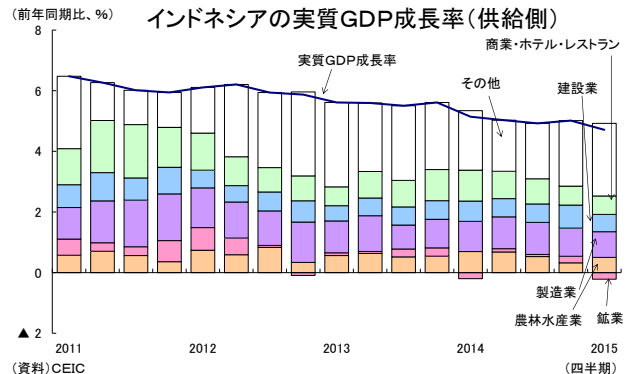
成長率の内訳を需要項目別に見ると、政府消費の伸び悩みを受けて成長率は鈍化した（図表1）。消費は、家計消費が前年同期比+5.0%と前期（同+5.0%）から横ばいで推移したが、政府消費が前年同期比+2.2%（前期：同+2.8%）と鈍化した。投資は前年同期比+4.4%と前期（同+4.3%）から小幅に改善した。外需については、輸出が前年同期比▲0.5%（前期：同▲4.5%）とマイナス幅が縮小し、輸入が前年同期比▲2.2%（前期：同+3.2%）と減少した。その結果、外需の成長率への寄与度は+0.4ポイントと前期（▲2.0ポイント）から改善した。

供給側では、第二次産業は製造業が前年同期比+3.9%（前期：同+4.2%）、建設業が前年同期比+6.0%（前期：同+7.7%）と鈍化し、鉱業がコモディティ安の影響を受けて前年同期比▲2.3%（前期：同+2.2%）と減少した（図表2）。第一次産業は前年同期比+3.8%（前期：同+2.8）と改善した。第三次産業については、商業・ホテル・レストランが前年同期比+3.6%（前期：同+3.7%）、運輸・通信が前年同期比+8.6%（前期：同+8.7%）と鈍化した。金融・不動産業が前年同期比+6.5%（前期：同+8.0%）と改善した。

（図表1）
インドネシアの実質GDP成長率（需要側）



（図表2）
インドネシアの実質GDP成長率（供給側）



¹ Bloomberg 調査

